

**事業所名** グループホーム 友愛  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月31日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 理学療法士  
資格・経験 障害児施設勤務20年、理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師  
B:現職 自営業  
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者にとって、グループホームが『第二の我が家』となり、一人ひとりがその人らしく、自由に自分のペースで暮らせるように働きかけ、入居者の希望に添った暮らしを提供し、一人ひとりの生活スタイルを可能な限り継続し、その人のできる力やわかる力を活かして生活できるように支援している。</li> <li>管理者・職員は、入居者一人ひとりの尊厳を大切にし、尊敬の気持ちを持って優しく丁寧に接しており、入居者が孤独感無く、心穏やかに安心して過ごせるように支援している。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員は、入居者一人ひとりの個性やペースに合わせてながらコミュニケーションやスキンシップを図り、入居者それぞれの思いをしっかりと受け止め、入居者が望む暮らしの支援に努めている。</li> <li>認知症について深く理解し、入居者が不安無く、安心感や満足感のある暮らしを送れるように支援している。</li> <li>入居者一人ひとりの心身の状態や能力に合わせた日常の活動を支援している。残された力を自然に発揮できるよう、一人でできる事やできそうな事には極力手を出さず、時間がかかっても自分一人で見守っている。</li> <li>入居者を家族と共に支え続けられるよう、家族にも協力をお願いしている。入居者の希望や意向を日々の生活の中で把握してその思いを家族に伝え、入居者一人ひとりの望む暮らしが送れるように支援している。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### 外部評価の結果

講評
<b>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>倉敷市の中心部の住宅地の中にホームはあり、近くにはスーパー等の商業施設も多く、日々の外出支援には事欠かない。幹線道路から中に入っていることもあり、ホームの周辺は交通量も少なく、日々の散歩も安全に行える。</li> <li>ホームは、住宅の2階と3階を利用しており、入居者が居心地良く安全に暮らせるよう住環境の整備に努めている。階段には昇降機を設置し、暮らしに不便さを感じるところは改修を行い、入居者が「第二の我が家」として安心して暮らせるように生活空間を整えている。飾り棚に変えたところへは季節を感じさせる飾り付けを施したり、玄関周りには鉢植えの花を飾る等、家庭的な温か味のある空間作りを行っている。また、段差等ハード面での不便さは入居者の身体機能の維持・向上に上手く活かしながら、入居者が日々元気に生き生きと暮らせるように支援している。</li> <li>法人内の異動も無く、開設当初からの馴染みの職員による手厚い介護を入居者に提供しており、入居者は家族と居るように安心して過ごしている。職員が定着することにより、職員間の連携や協体制度も整っており、職員は入居者との良い関係を築き、一つの家族として、可能な限り入居者の希望に添った暮らしを支援できるよう日々取り組んでいる。</li> </ul>
<b>特に改善の余地があると思われる点(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>立地条件等、地域性もあり、周辺の人々との関係作りに関しては厳しい面も多いとは思いますが、昨年の秋には運営推進会議への参加協力も得られ、町内会とのつながりも築かれつつあり、入居者が地域と関わり続けられるよう、今後のさらなる取り組みを期待する。</li> <li>職員間の意見交換の場として、定期的な会議の開催は必須であり、職員間の意思統一や共通認識を図る上でも、定期的な会議の開催を望む。</li> </ul>

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者のできる力やわかる力を活かせるよう、職員は極力手を出さず、入居者の様子を見守っている。食事前にはテーブルの上の物を片付け、食後は下着やテ・ブル拭きをしている方等、日常生活の中で自然な役割として行っている。また、入居者のこれまでの経験等を活かし、入居者同士が助け合い、支え合えるように支援している。</li> <li>職員は、入居者それぞれの特徴や個性を大切にし、その日、その時の本人の気持ちを尊重した支援を心がけている。また、職員は、常に明るく思いやりの気持ちを持って入居者と接し、入居者が自分らしく生き生きと暮らせるように支援している。</li> <li>居室に入る時や入浴時、排泄時等、入居者のプライバシーを尊重した支援を心がけ、入居者が不安やストレス無く、安心して過ごせるように支援している。また、面会簿は設けず、行事記録の中に訪問者を記録する等、個人に関する情報を他の入居者や訪問者が目にする事がないよう、個人情報取り扱いには十分に気をつけている。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進		○
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が暮らしやすいよう、開設当初から住環境の整備に努めており、ハード面の不備さも入居者の身体機能の維持・向上に上手く活かしている。また、職員は常に入居者の様子を注意して安全に暮らせるように配慮している。</li> <li>法人合同での研修では、外部から講師を招く等職員のスキルアップに努めている。ホームでは、必要に応じて随時ミニ・ディングの場を設け、介護技術や入居者への対応方法について話し合い、サービスの質の向上に努めている。管理者は、職員の要望を取り入れ、外部での研修へもっと参加しやすいように改善していきたいと考えている。</li> <li>ヒヤリハットを含め、事故については、一部の職員だけでなく、全職員で情報を共有して意識統一を図り、今後の対応へとつなげている。</li> </ul>		